

【下関市総合教育会議議事録】

令和2年度第1回下関市総合教育会議

開催日時	令和2年5月28日(木) 10:00~11:30
開催場所	オンライン会議(下関市役所 市長応接室、下関市教育センター 教育長室、自主研修室ほか)
出席委員の氏名	前田 晋太郎(市長) 児玉 典彦(教育長) 小田 耕一(教育長職務代理者) 藤井 悦子(教育委員) 吉村 邦彦(教育委員) 佐々木 猛(教育委員)
欠席委員の氏名	欠席なし
委員、関係者及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名	総合政策部長 竹内 徹 保健部長 九十九 悠太 教育部長 徳王丸 俊昭 教育部次長 藤田 信夫 教育部次長 中川 浩二 教育部長 大田 一夫 教育政策課長 岡本 誠也 学校教育課長 岡田 達生 教育指導監(生徒指導推進室長) 川畑 誠治 教育研修課長 岡 良治 学校支援課 浅野 秀晃 学校保健給食課主幹 木村 昭弘 教育政策課長補佐 内田 泰敬 教育政策課主査 倉前 啓介
傍聴人の数	4人

次第（目次）

【開会の宣告】	P 3
【市長挨拶】	P 3
【教育長挨拶】	P 4
【協議・調整事項】	
1. 安全安心な学校運営等について	P 4
2. 教育振興基本計画（教育大綱）の進捗状況について	P 17
【その他】	P 17
【閉会の宣告】	P 19

【開会の宣告】

徳王丸俊昭（教育部長）

ただいまから、令和2年度第1回下関市総合教育会議を開会いたします。

それでは、総合教育会議の主催者であります前田市長に開会のご挨拶をお願いいたします。

【市長挨拶】

前田晋太郎（市長）

皆さん、おはようございます。新型コロナウイルスの関係で皆さん大変ご心痛、ご心配であろうと思います。平素より非常にご協力をいただきまして、感謝申し上げます。

いろいろとご意見のある中ではありましたが、本市は、県内他市と比べても早い段階で学校を再開することができました。再開を5月14日にいたしまして、今日で2週間となります。子供たちの明るい声が地域に響き渡って、街が少し元気になってくるのかなと思っています。

そして、給食の実施についても、これも大きな懸念材料でありましたが、再開できて1週間、子供たちも少しずつリズムを取り戻してきていると感じています。先生方も、かつてない対応を迫られている中で、走りながら考えておられ、いろいろと対応も大変だと思いますが、臨機応変に対応していただき、いまのところ下関市内は、学校教育に関して大きな混乱はないと聞いており、教育委員の皆さんにも改めて感謝申し上げたいと思います。

新型コロナウイルスの感染を抑えていきながら、一方では、止まっている経済を立て直していく取組みをしていかなければなりません。国からも大きな予算が下りてきておりまして、経済対策をこれまでに3回発表させていただきました。その中で、第3弾の中に、タブレット端末の児童生徒1人1台配備、下関市としては、まずは小学4年生から中学3年生までに今年度中の整備をすることとしております。同時に、昨年度からGIGAスクール構想のもとで各学校にWi-Fi環境の整備を進めています。これも3月の補正予算で準備をしております。子供たちには、家庭においてもWi-Fi環境が整っていないという家庭も結構あるということで、そういった家庭に対してモバイルルーターを準備するなどの対応も6月補正で計上していく予定です。これらについては、市議会でご審議いただいて、議会の承認が得られれば、速やかに事業着手していきたいと考えております。

その流れの中で、本日のようにタブレットやインターネット環境を活用した遠隔会議を実施することとなりました。これを、今後もずっと続けていくかと言えば、私も皆さんと直接会って顔を見ながら話をしたいので、いつも遠隔会議とはしたくないのですが、世界的にコロナの影響で、我々の生活様式も変えざるを得ない状況であります。このことは、正面から受け止めて、前向きに取り組んでいく必要があると思っています。教育委員の皆さんにも、少しずつ慣れていただきたいと思います。初めてのオンライン会議ですから、なにをどうすればいいのか、というところがあると思いますが、よろしく願いいたします。

今日は、テーマとしては「安全安心な学校運営等について」と「教育振興基本計画（教育大綱）の進捗状況について」の2件の協議・調整となります。皆さん、この3か月間、本当にやきもきされて、いろんな思いが溜まっておられると思います。たくさんお話ししたいことがあると思いますので、忌憚のない、腹を割った良い会議にできればと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、ゆっくりやっていきましょう。機械の操作は苦手ではないのですが、オンライン会議は初めてですので、指名とか、操作とか、どのようになるのか手さぐりになると思います。どうぞ、よろしく願いします。以上です。

徳王丸俊昭（教育部長）

ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表して、児玉教育長にご挨拶をいただきます。

【教育長挨拶】

児玉典彦（教育長）

皆さん、おはようございます。教育委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校が臨時休業になったため、春休みを挟んで2か月以上もの長い間、学校に子供たちがいませんでした。こんなに長期間、学校に子供たちがいなかったことは、かつてありません。

学校再開の判断をするに当たっては、様々なご意見をうかがいました。早く再開をしてほしいという意見も、再開は時期尚早とする意見もありました。ですが、子供たちは、家庭で、学校で、地域で、まさにいろいろなことを吸収し、成長する時期を生きています。前田市長が常々申しているように、感染症は正しく恐れて、賢い対策をとらなければならないと思います。必要以上に恐れて、子供たちから学ぶ機会を奪ってしまうことの方が問題が多いと判断し、市長と協議した結果、5月14日に学校を再開しました。

さて、本日の協議・調整事項は、さきほど市長が申されたとおりですが、新型コロナウイルス感染症対策については、学校が再開した今、課題を市長と共有し、皆さんの意見を踏まえて、必要な対策について協議をさせていただきたいと考えています。

また、教育振興基本計画・教育大綱についても策定の進捗状況を報告させていただきたいと思っています。

どうか前田市長におかれましては、本市の教育の発展に今後とも格別なご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。本日の私の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

徳王丸俊昭（教育部長）

ありがとうございました。それでは協議・調整事項に入ります。

これより、議事の進行を前田市長にお願いいたします。

【協議・調整事項】

1. 安全安心な学校運営等について

前田晋太郎（市長）

それでは、協議・調整事項に入る前に、今回、初のオンライン会議ということと、佐々木委員も今回初めて仲間に加わっていただいたということですので、簡単に自己紹介をお願いします。

私と教育長は、すでに挨拶を済ませましたので、教育委員の皆さんと本日参加の部長の皆さん、お願いします。小田教育委員からお願いします。

小田耕一（教育長職務代理者）

皆さん、おはようございます。教育委員の小田耕一です。よろしくお願いいたします。

前田晋太郎（市長）

続きまして、藤井教育委員、お願いします。

藤井悦子（教育委員）

皆さん、おはようございます。今日は、ドキドキしております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

前田晋太郎（市長）

それでは、吉村教育委員、お願いします。

吉村邦彦（教育委員）

おはようございます。会社ではオンライン会議をすることがあるのですが、市の公式会議でオ

ンライン会議は初めてなので、まず、足元の話をするれば、市役所や教育委員会のWi-Fiなど、ICT環境などを整備して、いつでも使えるような環境にしていかなければいけないと感じています。

それと、ちょっと一応小顔に映るように工夫をしていますので、今日1日、どうぞよろしくお願いたします。

前田晋太郎（市長）

ちょっと小さく見えていますよ。それでは、佐々木委員、お願いたします。

佐々木猛（教育委員）

おはようございます。4月20日に教育委員を拝命いたしました、佐々木と申します。どうぞよろしくお願いたします。

前田晋太郎（市長）

よろしくお願いたします。これは、どちらから参加されているのですか。ご自宅のお部屋ですか。

佐々木猛（教育委員）

自宅の事務所です。

前田晋太郎（市長）

ああ、いいですね。はい、ありがとうございます。それでは、市役所の方に参りまして、竹内総合政策部長、お願いたします。

竹内徹（総合政策部長）

おはようございます。教育委員の皆さん、お久しぶりです。2か月振りではありますが、教育委員の皆さん、お元気そうで何よりです。本日は、よろしくお願いたします。

前田晋太郎（市長）

それでは、保健部の九十九部長、よろしくお願いたします。

九十九悠太（保健部長）

今回のテーマがコロナウイルスということで、初めて参加させていただきます。教育という慣れない分野ではありますが、どうぞよろしくお願いたします。

前田晋太郎（市長）

それでは、新たに教育部長に就任してもらった徳王丸さん、お願いたします。

徳王丸俊昭（教育部長）

徳王丸です。4月から教育部長を拝命しております。どうぞよろしくお願いたします。

前田晋太郎（市長）

それでは、協議・調整事項「1. 安全安心な学校運営等について」に入ります。

冒頭にも申し上げましたとおり、いろいろなご意見がある中で難しい判断ではありましたが、5月14日に何とか学校を再開することができました。ご家庭では子どもたちを学校に行かせることに不安を感じながら毎日お子さんを送り出していると思います。再開から2週間が経過した今、学校の取組はどのようになっているのか、まずは事務局の方から説明していただきたいと思います。

岡田達生（学校教育課長）

おはようございます。学校教育課長の岡田でございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、学校における感染予防対策についてご説明いたします。資料をお願いいたします。

この資料は、5月13日付けで学校に送付しました、学校における新型コロナウイルス感染症対応ガイドラインの徹底についての文書の一部になります。学校の対応につきましては、3つの密が重ならないのはもちろんのこと、可能な範囲で一つひとつの条件が発生しないように配慮するようお願いしています。

まず、1の換気については、いま大変過ごしやすい季節になり、窓を開けて授業を行っております。2の間隔の確保についてですが、1クラスの人数が少ない学級におきましては、十分な距離をとって授業を行っております。1クラスの人数が30人を超える学級におきましても、両端は左右の壁・窓いっぱいまで机を離し、可能な限り距離を保って授業を行っております。

3の給食についてですが、給食当番はもとより、児童生徒全員が食事の前に流水と石鹸による手洗い・消毒を行っております。食べるときには、机を向かい合わせにせず、会話を控えるなどの指導を行っております。4の消毒につきましては、下校後を基準として、全教職員で、教室や多くの児童生徒が触る水道の蛇口、階段の手すり、トイレなどの消毒を行っております。

5の手洗い・うがいの励行につきましては、給食の前、トイレの後、休み時間など、外から教室に入るときの実施の徹底をしているところです。

続きまして、保護者に協力していただきたいことについては、学校だよりやメール配信にてお願ひをしているところです。1の検温については、児童生徒本人のみならず、家族の方の検温、体温のチェックをお願いしています。そして、体調が悪い時には登校を自粛するようお願いしています。検温ができなかった場合には、教室に入る前に検温するようにしております。3のマスク着用につきましては、学校を訪問した際、手作りマスクを着用している子供も結構いるという感想を持ちました。

学校の取組についての説明は、以上です。

なお、向山小学校からのライブ映像をお届けする予定としておりますが、現在、ちょうど中休みの時間ですので、3時間目の授業が始まりましたら、ライブでつなぎ、学校の様子を見ていただこうと思っております。学校教育課からの説明は以上です。

前田晋太郎（市長）

わかりました。本当に長い間、学校が休業することとなりました。このことで学校現場において生じた問題もたくさんあると思います。このあたりにつきまして、まだ学校が再開して2週間しか経過しておりませんので、すべてを把握できていないかもしれませんが、顕在化したもの、予測されるものなど、事務局の方から説明してもらえますか。

川畑誠治（教育指導監（生徒指導推進室長））

おはようございます。生徒指導推進室長の川畑です。どうぞよろしくお願ひいたします。

児童生徒の生活習慣は、学校と家庭がともに時間をかけて確立していくものです。個人においても集団においても、学校でも家庭でも安心して生活することが保障されることで、児童生徒は目標に向かって、さまざまなことにチャレンジしていくことができると考えています。そのような中で、今回の臨時休業の長期化において、学校現場で生じた問題として顕在化したもの、そして予測されるものを3つの視点で説明いたします。

1点目は、臨時休業中の生活習慣の乱れです。1日のすべての時間が家の中での生活となり、多くの児童生徒が、工夫して安定した生活を送ることができる中で、生活リズムの崩れから、睡眠・栄養・運動のバランスを維持できなくなるケースもあるのではないかと危惧しておりました。特に、児童生徒が豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくためには、何よりも食が重要です。この点においても、学校と家庭がともに協力して取り組んでいく中で、学校給食の役割は重要ですが、この2か月以上、学校給食を提供することが叶わず、心配しておりました。

また、ネットやゲーム依存が深刻化していないかも懸念しています。1日の生活において、約3分の1を学校で友達と勉強したり、遊んだりして生活を送る中で、心身の健全な発達や健康・体力の保持・増進、さらには精神的な充足感を獲得していくものですが、同時にこの学校生活の

時間が、児童生徒にとってメディアから離れられる唯一の時間でもあります。

2点目は、学校再開後の学習習慣の乱れです。学校の授業では、学びの好きな子どもを目指して長い年月をかけて丁寧に指導している学習規律があります。具体的には、あいさつすること、時間を守ること、話し方・聞き方の習慣を図ること、授業前に授業に必要なものを準備することと忘れ物をなくすること、などです。このような学習規律を成長過程にあるすべての児童生徒に身に付けさせて、学習に向かわせることは容易なことではございません。日々、1時間ごとの指導や支援を積み重ねて、繰り返し行っていきます。生活面の指導においては、児童生徒の心の安定を図り、まず言われたことを素直に聞く心を育てていきます。児童生徒同士や児童生徒と教師の人間関係を構築していく中で、全体指導だけでなく、一人ひとりの状況に応じて個別に支援や指導を行います。学校再開後、すべての学校でこれらの学習習慣の確立に向けて一から取り組んでいるところでございます。

最後に、学校生活の安定を図る、です。学校は、一般社会と同じように、すべての児童生徒が安心して、安全な学校生活を送るために集団生活で大切にしたいことがあります。

一つ目は、学校の決まりを守ることです。児童生徒の規範意識を高めることや自立に向けて社会の一員としての自覚と責任を育てていきます。

二つ目は、人を大切にすることです。児童生徒は、集団での活動を通して他人を理解する力を高め、自分の感情や行動をコントロールすることを学びます。お互いが支え合う社会の仕組みを実感することで集団において自分が大切な存在であることも実感していきます。

三つ目は、仲間と協力することの大切さ、です。所属する集団の中で互いに尊重し、良さを認め合うような望ましい人間関係を形成し、共に生きていく態度を育むなど、他者との協調性を育てていきます。

四つ目に、公共物を大切にすることです。自他ともに人を大切にすることと同じように、物を大切にすることも大切にしていることの一つです。

以上のように、臨時休業中の生活習慣の乱れや学校再開後の学習習慣の乱れを大変心配しておりました。しかし、学校が再開して2週間が経過したばかりですが、全体としては、小学校も中学校も実に落ち着いた状態で授業や給食の時間などの学校生活を送っています。また、休み時間は元気よくのびのびと過ごしています。このように、円滑したスタートが切れたのは、多くの児童生徒は1日も早く学校に行きたい、先生や友達に会いたいという思いを強く抱いていたことと思います。さらに、各家庭で相当大きな負担が掛かっていたにもかかわらず、児童生徒の生活習慣が維持できていたということに尽きると考えています。そして、学校開放や臨時登校日、家庭連絡などで教職員が児童生徒とのつながりを維持してきたことなどが、児童生徒の安心感につながっているのではないかと考えています。今後、学校生活の中で教職員が個別の状況や変化を注視し、不登校や問題行動への対応について学校と家庭が連携して迅速に取り組んでいくことが求められます。同時に、未然防止として児童生徒一人ひとりが学校や教室を心の居場所として安心して生活を送ることができ、新しいクラスの一員として仲間と絆を深めていくことができるよう教職員が導いていくことが必要だと考えています。

以上、生徒指導推進室からの説明でした。

前田晋太郎（市長）

様々な心配事、懸念材料が長期間の休業の中であつたわけですが、いま、どちらかというと落ち着いて、子供たちものびのびと休み時間などに過ごしているということを知り、皆さんもほっとされたのではないかと思います。その中で、いまの報告を聞いて教育委員の皆さんもたくさんお感じになられたことがあると思いますが、向山小学校につなぐ前に、2人くらいお話を聞ければと思いますが、挙手をしていただけますか。藤井委員、どうですか。

藤井悦子（教育委員）

学校給食が始まって、食後の歯磨きをしている学校としていない学校があると聞いています。確かに歯磨きをすると、ブクブクすることで飛沫が飛ぶなどの心配をすることだと思うのですが、歯磨きは口をすぼめてするとか、うがいの回数を少なくするために歯磨き粉は使わないとか、

そういった創意工夫をして取り組んでほしいと思います。せっかくこれまで歯磨きをする生活習慣を定着させたのに、ここで途切れてしまうのは残念だと思います。

前田晋太郎（市長）

はい、ありがとうございます。フッ化物洗口の話はどうなっていますか。分かる方いますか。またあとで教えてください。

それでは次、佐々木委員はどうですか。

佐々木猛（教育委員）

いま小学校、中学校ともに落ち着いた状態であると聞いて、正直ほっとしています。気になっていたのが、児童生徒が不安定な状態で新学期を迎えるのではないかと思っていたところ。いまのところ、そういったことが見られないということで、日ごろ校長先生をはじめ現場の先生方が一生懸命に学校の良さを児童生徒に伝えていただいているお陰なのだろうと思います。生活のリズムの乱れというのも、休業中に多くの保護者の方から聞いていました。子供たちは一生懸命に自分なりに生活のリズムを整えて学校に行っているようで、朝も子供たちの元気な姿を見ることができて、本当にほほえましく思えます。先生方には心から感謝申し上げます。以上です。

前田晋太郎（市長）

はい、ありがとうございます。向山小学校はどうですか。もう少し時間があるようでしたら、吉村委員、いかがですか。

吉村邦彦（教育委員）

大人も、子供もコロナの影響で休業中にいろいろと習慣が変わったと思います。先生方も少し感覚が変わってきているのではないかという感じがします。現場の先生方が疲弊したり、混乱したりすると、子供たちが良い教育を受けられないので、ぜひ先生方に対しても注意を払っていただければと思います。

それから、3月と4月の下関警察署管内の未成年者の補導者数が、前年同期比で8件増えています。そういったことも、子供たちの寝る時間、起きる時間など、学校でできるところの指導をぜひしていただけたらと思います。

子供たちが非常に楽しみにしていた行事の中止や夏休み等の短縮など、やむを得ないことだとは思いますが、それに代わるもの、こういったものを市として、まちづくり協議会や自治会などに補助金なり、いろんな形で協力しているということですので、地域の皆さんに子供たちのために何かできることを考えてもらう仕掛けというか、市からの協力依頼等をしていただければと思います。以上です。

前田晋太郎（市長）

はい、ありがとうございます。小田委員、どうですか。

小田耕一（教育長職務代理者）

私も先ほどの説明をお聞きして、大変安心しました。この休業の間に、いろいろなことが心配されたり、予測があったりしたと思いますけれども、この休業で学校の役割が何だったのかということを総括できるチャンスにもなるのかなと思います。学校が今後強化すべきこととか、切り捨ててもよかったものとか、整理していくことができれば良いと思います。

それともう一つ、いま学校で予想もしなかった何か足りていないものがあるとか、足りていないことが分かってきたとか、そういうようなことがありましたら、それらを把握して対応を考えていけたらいいと思っています。

前田晋太郎（市長）

今回のコロナの騒動は、下関の行政全体にとりましても、本当に必要なものが何なのかが見え

てきたと思っています。これは要らなかったのではないかと、そういったものの見直しのきっかけにもなるし、それは学校ごとに異なっているでしょうし、地域によっても多少事情が異なっていると思いますので、必要なものが何かということを確認しなければならないと思います。そして、吉村さんからもありましたが、時間がない中ではありますが、これだけは絶対にやっておかなければならないということ、それは行事とかイベントとか、学校独自の取組とかであります、そういったものを今一度、整理できる良い機会になればいいと思います。

はい、それでは、中休みが終わったようですので、向山小学校の様子を見てみましょう。

伊藤真也（教育研修課主査、向山小学校中継）

それでは、こちら、向山小学校からお届けします。子供たち、3時間目の授業が始まりましたので、様子をお見せしたいと思います。

（次の様子のライブ映像）

- ①教室の入り口の扉、教室の窓、廊下の窓などが開放されていて、換気がされている様子
- ②子供たちの机の間隔がとられ、密を避けている様子
- ③子供たちが、全員マスクを着用している様子
- ④教室の入り口には、消毒用のアルコールが置かれている様子

子供たちの授業中でしたので、特にコメントを入れずに様子を見ていただきましたが、いかがだったでしょうか。

前田晋太郎（市長）

とてもよく状況が分かりましたよ。ありがとうございます。学校の生活の様子を見ていただきました。皆さんが特に気になっている「3密」であるとか、3密を回避するためにどういった取組をしているのかといったことが、具体的に見えたのではないかと思います。密集の部分が非常に難しいと思うのですが、換気を窓全開にして扇風機を回していましたね。そのことで密閉という点についてはクリアされていたと思います。入口の所には消毒スプレーが置かれていて、手指の消毒についても先生方が指導されているのだらうと思います。子供たちは全員がマスクをしていましたし、こういった風景を見ることで、皆さんも具体的なイメージを持つことができたのではないかと、思います。

もっとこうした方がいいのではないかと、安心したとか、皆さんのご意見を伺えたらと思いますが、いかがですか。

藤井悦子（教育委員）

実際に教室の様子を見て、安心しました。窓が開放されていたり、皆さんがマスクをきちんと着用していたり、マスクを忘れた子には学校の方から配付もされるようなので、安心だなと思います。以上です。

佐々木猛（教育委員）

子供たちの元気な姿を見ることができて、本当にうれしく思います。学校側も一生懸命に努力をされていると思います。学校がクラスターの現場とならないようにされていてらっしゃる配慮が見えてきます。

1点だけ気になったのが、向山小学校には設置されているのが確認できましたが、窓に落下防止の安全バーがない学校があると聞いています。そういった学校で窓を開放すると、そのままダイレクトに子供が落ちてしまうという危険性がありますので、施設整備等とあわせて、どのような配慮ができるか、考えていけたらいいと思います。以上です。

前田晋太郎（市長）

窓を開ける機会が、これまで以上に頻繁になると思います。そのあたりの安全への配慮は、また検討していきたいと思います。

吉村邦彦（教育委員）

子供たちが学校で元気に過ごしている様子を見て、非常にうれしく思います。その中で、いまの気候の良い時期だから、窓を開放して、扇風機で対応できると思いますが、真夏になったらどうするのか、という点が気になります。せっかくエアコンを付けたのですが、真夏になったら窓を閉めてエアコンを使うのか。それとは反対に、真冬になったら、どうするのか。といったことも考えていかなければならないと思います。そこは、大人の役割として、我々がしっかりと検討しなければならぬと感じました。多少、予算がかかるかもしれませんが、どのような対応ができるか考えていかなければならないと思いました。

前田晋太郎（市長）

この点については、教育長とも話をしております、「エアコンの電気代、ガス代が今年にかかるけれども、市長、勘弁してください」と教育長から言われています。エアコンも稼働させて暑さをしのぎながら、窓もしっかり開けて換気をしてやっていくということになると思います。密閉してエアコンを効かせるというのは、なかなか厳しいと思っています。

冬の対策をどうしますか。その頃のコロナの状況にもよりますが、臨機応変に対応していかなければならないと思っています。教育長、何かありますか。

児玉典彦（教育長）

市長と話をさせていただいたとおり、今年の夏は、エアコン全開、窓も全開で乗り切りたいと思っています。冬季については、もう少し暖房機器を充実させていくことも視野に入れて検討しているところです。また市長には大変無理なお願いをするかもしれませんが、よろしく願います。

前田晋太郎（市長）

はい、わかりました。それでは、小田委員、どうですか。

小田耕一（教育長職務代理者）

映像を見せていただいて、私も大変安心いたしました。先生方の周到的な準備を感じることができました。教室、廊下の整理整頓がきちんとされており、これが安全と物事の変化を見るのに一番大事なことだと思いますので、教室内、校舎内の整理整頓を日常されておられること継続していくことが大切だと思いました。以上です。

前田晋太郎（市長）

ありがとうございます。そうですね、コロナに対する安全管理、衛生管理については、現状を見ていただいたので、皆さん、イメージがしやすかったのではないかと思います。これからも適宜、皆さんに情報提供を進めていきたいと思っています。

それでは、次のテーマですが、文部科学省の調査によりまして、ニュース等でも取り上げられていますが、遠隔授業を行うなど、このコロナ禍のもとでも授業を進めている公立学校は全国で約5%とのことでした。この5%という数字が高いのか低いのか、決して高くはないと思いますが、その中で児童生徒の学力の格差が生じているのではないかと、との指摘があります。それで、9月入学制の検討等も国の方では議論されていて、実施はしない方向だという話も聞こえていますが、学びの保障に対する学校の取組はどのようになっていますか。事務局から説明をしてもらえますか。

岡良治（教育研修課長）

教育研修課の岡でございます。よろしく申し上げます。資料に沿ってご説明いたします。

臨時休業における学力の格差への懸念に対しまして、各校では学びの保障に向けて取組を進めているところです。まずは、どの学校におきましても前提として児童生徒の学習状況の実態把握を行っております。そして、その状況又は各校の実情に応じて、資料に示すとおり具体的な取組

を行っております。授業におきましては、個別支援・指導の充実として、複数教員によるチーム・ティーチングや少人数指導の機会を増やし、学校によっては管理職が指導に入ったり、支援員を重点的に配置したりしておるところです。

また、ICTやネット配信教材、これは臨時休業中も使われておりましたが、それを活用した授業や小さな段階を踏んで確実に学習を進めていくスモールステップでの授業等、分かる、できる授業づくりに積極的に取り組んでいます。さらに、学習状況に応じた指導と評価の一体化を目指して、日常的・継続的な学習評価を活かした授業づくりを進めています。

続いて、授業以外の場においても、各校の時程等に応じて、放課後等を活用した補充学習を実施したり、夏休みの学習教室や定期テスト前の質問教室等の計画をしたりしているところでございます。

また、個に応じるために家庭と連携して、個別の家庭学習課題を出したり、自主学習を充実させたりする取組を行っている学校もあります。さらに、すべての学校で実施している毎週の生活アンケートにおいて、学習にかかわる内容項目も入れて、教育相談や個別指導において不安を軽減する取組や必要な児童生徒に対しては、授業の板書のプリントを配付したり、持ち帰り可能な学習プリントコーナーを設置したりするなどの取組を進めている学校もあります。

各校の好事例につきましては、校長会等で紹介し、実情に応じて取り組んでいけるように広めてまいります。以上でございます。

前田晋太郎（市長）

はい、ありがとうございます。佐々木委員は、PTAの役員を長くされておられたとお聞きしておりますので、臨時休業が長引いて、いま学力保障の話もありましたが、保護者の中では、どのようなご意見があるのか、お聞かせいただけたらと思います。

佐々木猛（教育委員）

市PTA連合会として、当初、5月7日に学校が再開される予定であった段階でアンケートを実施しました。保護者の賛成・反対の観点からご意見をいただき、自由記述においてお答えいただきました。調査期間は1週間でしたので、300人強の方からの回答にとどまりましたが、LINEグループ等を活用した調査でもあり、短い期間にしては多くの方に回答いただけたと思っています。その中で、全体として目立った意見としては、健康が第一である、というものです。ほとんどの保護者の方がこの点について記述されておりました。その次に多かったのが、学力の低下についての不安でした。それをオンライン学習やその他の手段で補うことができないのか、というご意見でした。再開反対の方にとっては、学校がクラスターとなる懸念から、再開は時期尚早ではないか、という意見でしたが、半面では子供の学力・成績のことも不安をお持ちである状況がありました。

賛成・反対は、ほぼ拮抗しており、子供たちの学力低下をいかに防ぐことができるのか、このことについては学校と一緒に取り組まなければいけないのではないかと、という点では、賛成・反対ともに共通していたように思います。

学校再開後においては、子供たちの学力向上に向けて、1か月半遅れた部分を取り戻すべく努力をしていただきたい、その点については保護者も協力していきたい、という意見が自由記述の中にもたくさんありました。これからのことを保護者も見られるようです。以上です。

前田晋太郎（市長）

いま報告していただいたとおり、1か月半の休業の遅れを取り戻していただきたいと、保護者の方は強く願っているということですが、このことについて、臨機応変に対応していかなければいけませんし、時間の確保が今後の課題と言えます。詰込み過ぎになってはいけませんし、イベントが少なくなることは仕方がないけれど、必要なものは残して欲しいということ、そのあたりのベストミックスを考えていかなければならないと思います。ぜひ、PTAの皆さんにも、佐々木委員の方からしっかりと意見を聴きながら、保護者と地域と学校が連携をしていけるような環境づくりに、これからもご協力いただければと思います。

学校の授業時数については、今後、どのように取り戻していくかということが焦点となっていますが、それについて、事務局から説明をお願いします。

岡良治（教育研修課長）

教育研修課から続けてご説明いたします。

学びの保障に向けた授業時数の確保については、各校の実情に合わせて、行事等の見直し、精選や縮小を計画しております。具体的には、資料をご覧ください。

まず小学校におきましては、運動会や学習発表会の中止、または内容等を検討しての縮小、それから水泳指導、体力テストの中止、土・日曜日の参観日や1学期の参観日の中止等を考えております。参観日につきましては、授業時数の確保とともに学校での3密回避の観点からも検討をされています。また、2泊3日の宿泊学習の1泊への縮小、クラブ活動や委員会活動の縮小も多くの学校で行われます。

続きまして中学校の例でございます。中学校におきましては、職場体験や地域学習、1学期の中間テスト、クラスマッチ、進路説明会や地区懇談会等を中止する学校が多くあります。また、体育祭や文化祭は内容の精選、当日や練習日程の短縮を行ったり、2学期以降の中間・期末テストの日数の削減を行ったり、生徒総会の実施方法を工夫したりしているところです。

以上のように、各校において、行事や特別活動等の見直しにより、授業時数の確保に努めているものの、学校再開が当初予定の5月7日から14日へととなったことにより、学校現場からは夏休みの短縮による授業時数の確保を要望されているところです。教育委員会としても考えているところですが、本会におきまして皆様のご意見を賜りたいと思います。以上でございます。

前田晋太郎（市長）

行事等については、中止にせざるを得ない状況もありますから、中止と縮小とのバランスをとって方針を出していくことになるとは思いますが、教育長、考え方として、授業を確保していくための措置と、コロナの感染を防止するための対策というものが混じっていると思うのですが、授業数というのは、今回1か月半の遅れで、実際に、どうでしょう、これらの行事と夏休みを短縮することで、今年度はほぼクリアできるだろうというところは大丈夫そうですか。

児玉典彦（教育長）

私が学校現場に行って、校長から話を聞いたり、あるいは課長から上がってくる報告を聴いたりする中で、当初、夏休みを短縮しなくても授業時数を確保できると感じていました。ところが、ギリギリでやってしまうと、行事を全部やめてしまうということにもなりますし、毎日6時間とか7時間の授業をするということになると、子供たちも教員も疲弊してしまいます。ということで、現場から要望があり、平日の授業に余裕を持たせて、教員や子供たちの疲労がたまらないように、詰込みにならないように、夏休みを少し短くして授業日を増やそうかと思っています。

前田晋太郎（市長）

そうですね。夏休みは、今までどおりキープして、行事を削って授業数を作るというのは、ちょっと詰込みになるような気がしますね。先生にも、子供たちにも負担がかかっていくように感じますね。そういう意味では、それを緩和する意味で、夏休みを有効に使う、それから、先ほども言いましたが、クラスターとか、やっぱり感染の防止のために中止・縮小せざるを得ないという要素も、これまた仕方のないところですから、それらを整理して、子供たちや保護者の方に理解をいただくということですね。教育委員の皆さんは、どのようにお考えですか。

藤井悦子（教育委員）

学びの保障に向けた行事等の精選ということで、小学校の例で、家庭訪問が中止となる検討がされているようですが、新1年生の場合、その子がどういった経路をたどって学校に来るのか、また家庭の状況を把握するという意味で家庭訪問は必要だと思います。年度当初でなくても構わないので、必ずこれについてはしていただきたいと思います。以上です。

前田晋太郎（市長）

なるほど。家庭訪問は、学年によっては大切ですね。中身を検討して実施することもできるのでしょうか。例えば、低学年だけは実施するとか、中止ではなく縮小の方向で検討する余地があるのであれば、そこは検討してみてもいいでしょうか。

児玉典彦（教育長）

家庭訪問につきましては、原則として中止の方向で検討しています。ただ、藤井委員がお話しされたように、低学年については需要があると思いますので、対応については各学校に任せているところです。家庭訪問に代わって、個人懇談を年度初めに行うことで、保護者との連携、意思疎通を図る学校もあります。以上です。

前田晋太郎（市長）

そういえば、最近、コロナの関係で帰宅するのが早いのですが、この間、午後6時ごろ帰宅したとき、自宅の電話が鳴ったので受話器をとったら子供の担任の先生からだったのです。学校が再開する前だったので、子供の状況確認だったのですが、1件ずつ電話をされているとのことでした。そういった確認作業とか、やり方はいろいろだと思いますが、臨機応変に対応していかなければならないと思います。藤井委員のご指摘については、また検討させていただきます。

吉村邦彦（教育委員）

いまお話があった内容について、学校の規模や学年によって取組は変わってくると思いますし、変えなければいけないと思います。だから、一律に中止、一律に縮小ということではなく、教育委員会にきちんと報告をしたうえで、学校の実態に沿った対応をすべきだと思います。行事等の取扱いの基準は、少し余裕を持たせて、先生たちに裁量を与えていくことも必要ではないかと思っています。

それから、コロナの対策という観点から、せっかく保健部長も参加されているので、教育委員会が示した方針について、専門的な見地でご意見をいただけたらと思います。以上です。

前田晋太郎（市長）

九十九部長、どうですか。行事等の取扱いについて、医学的な観点からご意見があればお願いします。

九十九悠太（保健部長）

仰るとおり、過度に恐れ過ぎるのはどうかと思います。保健的な観点では、先ほど歯磨きの話もありましたし、正しく恐れて、やるべきことはやるというように考えた方が良いと思います。個別のガイドラインの中身について詳細が把握できているわけではありませんが、家庭訪問の観点で申しますと、私が気になっているのは、先ほどスライドにもありましたが、ゲーム依存についてです。最近、ご存知のとおりゲーム障害として正式に病名として認識されていまして、厚生労働省でも実態の把握に努めており、かなりの数に上るとの結果も出ています。コロナの自粛が、これにどう影響したかということは、これから分かってくるものと思いますが、家庭訪問を通じて、そういった生活習慣などを把握する必要があるのではないかと思います。どんな形でそれらを把握していくのかという問題もありますが、ゲーム障害は、一旦発症すると、なかなか治すのが難しいとも言われていますので、早めに察知する機会というのが、家庭訪問などを通して把握していただけるといいのかなと思います。私からは以上です。

前田晋太郎（市長）

ありがとうございます。ゲーム依存は、いろいろと考えさせられますね。うちの子も、むちゃくちゃはまっていて、最後は取り上げました。かわいそうだけど、仕方がないですね。今は、学校が始まって、本当に良かったです。だいぶ落ち着いてきました。

小田耕一（教育委員）

教育長の中では、段階を追って、決定して、公表していくという計画があるかというように思っていますが、夏休みをいつからにするとか、授業日をいつまでにするとかいうことが、学校の方に早く知らせることができれば、学校が準備に当たることができて、具体的に進めて、1学期にどこまでやる、2学期にまわす、そして評価をどの時点でするとということが決められてくるのではないかと、思います。それを、たぶん、学校現場は待っておられるというように思います。

それから、学校行事については、それぞれの個性や特性を發揮して、力を發揮する場というのが、やっぱり子供たちの楽しみになっているということもありますので、そのあたりは一番よくわかっていらっしゃる学校の現場が判断をされるということは大事なのかなと思います。以上です。

前田晋太郎（市長）

ありがとうございます。今大事なところでしたね。夏休みの期間が決まっているのであれば、先生たちは待っているよ、という話でした。確かにおっしゃるとおりで、議会報告が第1報だったと思いますが、教育長、どうだったですか。

児玉典彦（教育長）

これについては、現場との合意形成がとても重要だと思っています。そういう中で、声を聞きながら、今のところは、7月31日まで授業を続ける、夏休みは8月1日から8月23日までとするということで、いま検討しているところです。市長にもご相談することになると思います。

前田晋太郎（市長）

これは、議会は議会で第1報告は大事ですが、お尻が決まっていることですから。これはまた検討して、議会最優先ということではなく、臨機応変でいいのかなと思います。

それでは、時間が迫ってまいりましたので次の項目に行きたいと思いますが、これからの取組の中で、ICT化推進について、先ほど私からの挨拶の中でも触れましたが、児童生徒にタブレット端末を配備する計画や遠隔授業の実施など、コロナの問題が深刻になる中で文部科学省のGIGAスクール構想も加速しています。GIGAスクール構想で子供たちの学びはどのように変わっていくのか、事務局から説明してもらえますか。

岡良治（教育研修課長）

続けて教育研修課からご説明いたします。資料をご覧ください。

GIGAスクール構想は、特別な支援を必要とする子供も含め、多様な子供たち一人ひとりに個別最適化され、資質能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現するもので、これまでの教育実践と最先端のICTとの融合を図り、教員と児童生徒の力を最大限に引き出すことを狙いとしております。1人1台端末及び高速通信環境による子供たちの学びの変容について、学習形態別に見てみます。

まず、一斉学習においては、子供たちの興味・関心・意欲を高めるだけでなく、授業中において子供たち一人ひとりの反応を把握することができ、その反応を活かした双方向の一斉授業が可能となります。

次に、個別学習においては、課題に応じた内容を選択したり、習熟の程度等に応じた学習を進めたりすること、また、調べ学習において、インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録、シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習、マルチメディアを用いた資料・作品の製作等を行うことができるようになります。各児童生徒の学習記録が自動的に記録・蓄積されることにより、児童生徒が振り返りをしやすくなり、これまでの学びを活かした学習を容易に進めることができるようになります。

このように、一人ひとりの教育的ニーズや学習状況に応じた学習が可能となってまいります。

三つ目に、子供たち同士が教え合い、学び合う協働学習においては、一人ひとりの考えをお互

いにリアルタイムで共有し、双方向で意見交換して整理していくことができるようになります。また、グループでの分担、協働による作品の製作、発表資料等の製作や遠隔地や海外の学校等との交流授業も可能になります。

これらの学習例から具体的な例を一つ挙げますと、小学校の社会科で「これからの食料生産と私たち」という内容があります。この学習において、これからの食生活の中で自分たちができることをテーマに、食料自給率や食料品別の輸入量の変化、フードマイレージ等の資料を、インターネットを用いて情報収集し、自分にできる手立てをまとめていきます。その考えをまとめる際には、シンキングツール、思考をまとめるツールを活用して、多面的に見て考えたり、構造的に考えを整理したりするとともに、考えの根拠を資料で提示して、より明確に視覚化して、聞き手を意識した発表を考えるようになります。

また、各自の端末画面等を一覧表示で共有することで、他者の考えから新たな視点や手立てに気付くことができる、そのような学習が可能となってまいります。

これらのことによって、学びを深めるということにつながっていきます。以上ご説明いたしました。

前田晋太郎（市長）

視覚的になるという部分について、実際に皆さんに見てもらえるとイメージしやすくなるのかなと思いますが、今日は手元にタブレット等がないので見てもらえないのが残念です。いまの説明について、皆さんと意見交換をしていきたいと思いますが、タブレットを使った授業等について、ご意見がある方がいらっしゃったら、お願いします。

吉村邦彦（教育委員）

タブレットは、いろいろと課題があると思いますが、早急に取り組むべきだと思っています。現在、予算をどのくらい確保されているか正確には分かりませんが、学校で取り組むとすると、コンセントの設置、Wi-Fiの増強、電子黒板等の大型提示装置の導入、例えば下関独自のアプリの開発など、そういったことを諸々考えると、課題は多いと感じています。予算が限られている中では、何を優先して進めていくのかをしっかりと考えなければいけないと思います。

今回のコロナのような状況になったときに、日本全国、もしくは世界中でハードの取り合いになってくると思います。できるだけ早く、市としても取組んで、学年の優先順位も考えなければいけないと思います。例えば、中学3年生や小学6年生を優先的に配備するとか、これは絶対に年内に実施するとか、市長の決断と実行で実現をしていただきたいと思います。

また、先生方が授業の中でどのように活用するのか、遠隔授業だけで使うというのではあまり意味がないと思いますし、ICT機器をどのように授業で使っていくのか、教育委員会として先生方にいろいろと提案していかなければいけないと思います。以上です。

前田晋太郎（市長）

ありがとうございます。予算の規模等、いろいろとご意見をいただきましたが、先ほども申し上げましたとおり、まずは今年度中に小学4年生から中学3年生までのタブレット1人1台の整備、学校のWi-Fi高速通信環境の整備、それと各家庭でWi-Fiの環境がない方へのモバイルルーターの無償貸出しへの対応、諸々のアクセサリなどを、今回の経済対策第3弾で、国から交付金・補助金を受けながら予算を確定させましたので、これをしっかりと実行していきます。

これをいま全国的に一斉に進めている状況なので、本市はiPadを導入することになっていますが、メーカーの供給のスピードがどの程度なのか読めないところがありますので、冬までに調達が叶えばいいなと思っているところですが、とにかく急いで進めます。

当然、コロナ対策としてだけでなく、学校の授業の中で、一段階レベルの高い、そして視覚的で理解が進む授業、感性を豊かにできるような取組をするために進めていきたいと思っています。それと電子黒板の話がありましたが、電子黒板は金額がちょっと高かったので、予算は大型モニターを計上しています。大型提示装置は国の補助金の対象にならないので単市で予算措置しなければいけないのですが、負担が大きすぎて、何億円となってしまうので、これを抑えてやっ

ていこうということ考えています。

小田耕一（教育長職務代理者）

別件にはなりますが、端末を授業で活用することを想定すると、動画等を双方向で扱う必要があると思います。通信負荷がかかることになるので、高速通信が可能なインフラがきちんと整備されていることが大切です。その点において学校で格差がないか、地域差がないか、などの点検が行われて確認ができているのか、という点を心配しています。学校に限って言えば整っていたとしても、社会教育施設はどうか、こちらにも点検の目を向けていただきたいと思います。

前田晋太郎（市長）

ありがとうございます。とても大切なところだと思います。豊浦町や豊北町の電波が弱い地域でご指摘のような弊害が生じる可能性があります。これらの地域については、先ほども話がありましたモバイルルーターを活用することを考えています。モバイルルーターは、どうもうまくいくという報告を受けています。電波は届いているけれども電波が弱い、使いにくいという方等には、このモバイルルーターを活用することを想定しています。3000個のモバイルルーターの導入を予定しています。貸出に係るルールの検討など、難しい問題もありますが、これを進めていくこととしています。

佐々木猛（教育委員）

当初、小学5年生から中学1年生を対象としていた端末整備を、小学4年生から中学3年生まで広げていただいたことを非常にありがたく思っていますが、先日、県立学校では、すべての児童生徒にタブレットを配付すると発表されました。下関市においては、下関商業高等学校だけが遅れてしまうのでは、と思います。私学で言うと、ほとんどの学校が、すでに取り入れています。県立もすべてが整えるとなると、下関商業高校だけが取り残され、格差が出てくるのではないかと思いますので、予算が大変なところだとは思いますが、ぜひ前向きなご検討をいただきたいと思います。

前田晋太郎（市長）

下関商業高校もしないといけませんね。また検討していきます。

佐々木猛（教育委員）

よろしくお願いします。

前田晋太郎（市長）

小学1年生から3年生へのタブレット配備の優先順位を下げたのは、鉛筆を使った、基本的な学びをじっくりと進めていくことも必要だとの判断からです。一方で、今後、コロナの第2波、第3波が来たときに遠隔授業等に対応できないのではないかと、その指摘を受けることが予想されます。そのあたりは、DVDや紙媒体のプリント等の配付で対応することになると思います。先生方も大変だろうと思いますが、そういった対応でカバーできるのではないかと考えています。

登校日についても、慣れてくれば1時間だけ登校させるなど、対応の方法はいろいろと考えられるので、そういったものを臨機応変に組み合わせながら対応していきたいと思います。ということで、今年度の対応は、小学1年生から3年生を外していますが、これも順次対応していかなければならないと考えています。

本日、学校における安全安心の取組がしっかりと行われていることを、皆さんと確認できたと思います。休業中や学校再開にあたっては、学校の取組に感謝いたします。

また、休業によって学校が抱えた課題についても、教育長、教育委員の皆さんと共通認識しましたので、この課題解決に向けて、本日の協議を踏まえて、一緒に取組んでいきましょう。それでは、協議・調整事項の「1. 安全安心な学校運営等について」は、ここまでといたします。

【協議・調整事項】

2. 教育振興基本計画（教育大綱）の進捗状況について

前田晋太郎（市長）

続きまして、協議・調整事項の「2. 教育振興基本計画（教育大綱）の進捗状況について」についてです。

総合教育会議の役割の一つとして、教育大綱の策定があります。前回の令和元年12月に開催いたしました総合教育会議において、令和2年度に策定する新しい教育振興基本計画の教育理念、基本目標、基本方針をもって教育大綱とすることについて、皆さんの同意をいただいたことは、皆さんご承知のとおりでございます。つきましては、教育振興基本計画策定の進捗状況について、事務局の説明をお願いします。

岡本誠也（教育政策課長）

教育政策課でございます。よろしくお願いたします。資料をお願いします。

現在の進捗状況につきましては、お手元の資料の「今後の予定」にお示しするとおりでございます。現在、5月26日の教育委員会会議において、教育振興基本計画の原案を報告しているところです。その後、市議会への報告、パブリック・コメントの実施を経て、8月の教育委員会会議で教育振興基本計画を議決し、その後に、また総合教育会議において、この基本計画を教育大綱とする決定をしていただく予定としております。

計画の幹となる基本理念について、お話をさせていただきます。計画の基本的な考え方である基本理念、教育理念でございます。「夢への挑戦 生き抜く力 胸に誇りと志」こちらについては、変更はございませんけれども、副題を新たに「学びが好きな子ども 学びの街・下関」としております。私からの説明は、以上となります。

前田晋太郎（市長）

はい。基本理念を変更するということですね。教育委員の皆さん、ご意見ありますでしょうか。

吉村邦彦（教育委員）

教育理念、教育振興基本計画、大綱について、異論はありません。ただ、この中に、今回のコロナのような問題が生じた際の危機管理、危機回避といったことが、状況・状態によって臨機応変に変えられる部分、継ぎ足さなければいけない部分があるのではないかと考えています。このことについては、様々な考え方があると思いますし、一過性のものであるということもあるかもしれませんが、5年という計画期間を考えると、災害なども含めて、教育の一環として必要なことではないか、と考えています。以上です。

前田晋太郎（市長）

貴重なご意見だと思います。「生き抜く力」という言葉の中に、たくましく生きるための健康や体力という項目・文章が入っています。そういった意味で、これからコロナのために世の中が大きく変化し、生活スタイルを変えていかざるを得ない状況になったわけですから、子供たちにそういった基本的な自分を守る、健康を守っていくという考え方を身に付けさせる意味でも、吉村委員のご意見を踏まえて、表現していくよう検討していきたいと思っております。

ほかにご意見はありますか。それでは、本会で教育振興基本計画及び教育大綱の進捗状況について、報告済みといたします。

引き続き、基本計画の策定作業を鋭意進めていただき、将来の下関を担う子供たちに、必要とされる力が備わるよう、充実した計画の策定をお願いいたします。

【その他】

前田晋太郎（市長）

もう少しだけ時間がありますので、その他、何かございますか。

児玉典彦（教育長）

最後に一つだけ、九十九保健部長に確認をしたいことがあります。コロナ対策において、非常に頭を悩ませているのが、修学旅行の取扱についてです。修学旅行の実施について、どのようなご意見をお持ちですか。

九十九悠太（保健部長）

そうですね。修学旅行は、確かなかなか対策が難しいとは思いますが。ただ、逆に日常の小学校、中学校での生活と修学旅行中の生活・行動で、どこがリスクとなるのかという課題をあげてからでないと議論がしにくいと思います。

私は教育の専門ではありませんが、個人的には、集団生活は普段から行っているとはいえ、修学旅行は特別な経験だと思いますので、先ほど教育委員会からご意見があったように、縮小する中で、守らなければいけないこと、工夫しなければいけないことがあるというところで、保健所の方も万全を期すような形で協力し、何とか実現をさせてあげたいと思っております。まずは、どこがリスクなのかというところを、課題をあげながら議論をしていきたいと思っております。そこには、保健所もしっかりと協力して、感染対策で協力していきたいと思っております。以上です。

前田晋太郎（市長）

私の中学3年生になる子供が文洋中学校に在籍していますが、例年は奈良・京都に行くのですが、今年は、それは無理だということで、県内の萩に行くことになったそうです。県内移動になって移動距離はぐっと短くなって、それはそれでとてもいいことではないかと思っています。地元を知るといっても大切です。私としては、修学旅行をなくすというのは、子供たちが可哀そうだと思っています。それは前向きに配慮してあげたいと思っています。教育長、どのあたりを悩んでおられますか。

児玉典彦（教育長）

いま頭を悩ませているのは、当日のバスや鉄道などの移動中の密の状態や宿泊施設で1部屋に6人程度が一緒に生活するようになる点です。私も、修学旅行を中止するというのはいたたまれない思いでありますが、リスクも回避しなければならぬために、判断が難しいところです。

前田晋太郎（市長）

難しいですね。複数人で一緒にの部屋で生活をするという点について、悩ましいですね。時期的には、秋ごろの実施になるのでしょうか。

児玉典彦（教育長）

いま9月、10月ごろに実施する学校が多いようです。

前田晋太郎（市長）

先ほど九十九部長が言われたように、リスクがある部分について、先にあげて、例えば新幹線は使わないとか、部屋は何人までとか、リスクとその回避方法を示して、それからみんな議論することにした方が、スムーズにまとまるのではないかと思います。また、保健部とも協議をしていきましょう。

児玉典彦（教育長）

よろしく申し上げます。

前田晋太郎（市長）

それでは時間となりましたので、このあたりで本会を閉じたいと思います。

本日は、オンライン会議ということで、私も初めてだったので、会議の捌きもスムーズに行え

ない部分もあったと思いますが、ご協力ありがとうございます。次回の会議がオンラインなのか、実際に参集して行うのか、まだ分かりませんが、臨機応変に対応していかなければなりませんので、また皆さんのご協力をお願いいたします。

これからも教育委員会と手を携えて、下関の教育の発展に努めてまいりたいと思います。教育委員の皆さんからもご意見をいただきたいと思いますので、どうか、これからもよろしくお願い致します。

進行を事務局に戻したいと思います。

【閉会の宣告】

徳王丸俊昭（教育部長）

皆さん、大変お疲れ様でした。それでは以上をもちまして、令和2年度 第1回 下関市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

(ありがとうございました)